

2030年に達成期限を迎えるSDGsの進捗状況

◆国連で「未来サミット」開催、SDGs加速に向けて「未来のための協定」採択

2024年9月、米ニューヨークの国連本部で、各国首脳らが参加する「未来サミット」が開催され、成果文書の「**未来のための協定**（Pact for the Future）」が採択された。協定は、5つの章と56項目の行動（Action）からなり、全体を通して、30年までの達成が危ぶまれている「SDGs（持続可能な開発目標）」を再び軌道に乗せ、加速させる内容になっている。

24年6月に発表された「**Sustainable Development Report 2024**」によると、世界全体のSDGsの進捗は20年以降停滞し、30年までに達成が見込まれるのは169のターゲット（17目標に紐づく小目標）のうち、わずか17%しかなく、残りの84%は進捗が限定的もしくは後退している。4年連続世界ランキング1位のフィンランドですら、17目標のうち最高評価の「達成済み」は2つにとどまっている。

5つの章で構成される「未来のための協定」

- ・ 持続可能な開発と開発のための資金調達
- ・ 国際的平和と安全
- ・ 科学・技術・イノベーション、そしてデジタル協力
- ・ 若者および将来世代
- ・ グローバル・ガバナンスの変革

出所：“Pact for the Future, Global Digital Compact and Declaration on Future Generations”を基にARC作成

◆日本のSDGs達成度は世界167ヵ国中18位、5つの目標が最低評価

上記報告書は、国連や研究機関などの統計資料をもとに、各国のSDGsの取り組みを100点満点で点数化したSDGs達成度を公表している。日本のSDGs達成度は79.9で、世界167ヵ国中18位で、前年の21位から3ランク上がった。また日本が最高評価の「達成済み」とした目標は、「目標9. 産業と技術革新の基盤を作ろう」1つであった。

一方、最低評価の「深刻な課題がある」とされたのは右図の5つで、目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」は国会議員の女性比率の低さと男女の賃金格差が問題だとされた。

日本が最低評価を受けた5つの目標

- 目標5：「ジェンダー平等を実現しよう」
- 目標12：「つくる責任、つかう責任」
- 目標13：「気候変動に具体的な対策を」
- 目標14：「海の豊かさを守ろう」
- 目標15：「陸の豊かさを守ろう」

出所：“Sustainable Development Report 2024”を基にARC作成

SDGsの達成が危ぶまれるなか、「ポストSDGs」についても国際的な議論が始まっている。24年6月のNature誌で欧米の科学者らがSDGsの枠組みを50年まで延長し、拡大するよう呼びかけている。国連は4年ごとに「SDGsサミット」を開催し、ポストSDGsは27年開催のサミットで討議される予定だ。 【秋元真理子】